



水戸の宝と学芸員

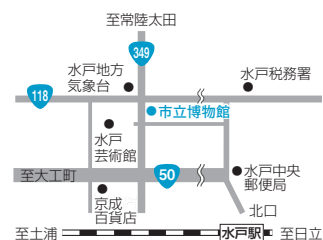
市立博物館の学芸員が日々向き合う「水戸の宝」とその魅力について、学芸員ならではの視点で毎月紹介します。
問合せ／市立博物館（☎226・6521）

市立博物館外観。訪れる皆さんをお迎えするのは、水戸ゆかりの作家・浅野暢晴の作品「Double Face」。その大きな口の中を、思わずのぞき込みたくなります



中央図書館の上にあります

展示会の様子



水戸市立博物館

所在地／大町3-3-20

開館時間／9:30～16:45

入場料／常設展・企画展は無料、特別展は別途

休館日／月曜日・祝日、12月29日～翌年1月3日 ※祝日が日曜日に重なる場合は開館。

水戸のことが知りたい——そんな時、水戸市立博物館に行くと、いろいろな発見があります。レトロな生活用品、戦争の時に落とされた爆弾、水戸徳川家の古文書、動物のはく製、絵画や彫刻などの芸術作品。さまざまな水戸ゆかりの品が展示してあります。さらに収蔵庫には、水戸に関連する多種多様な資料がところ狭しと並んでいます。その数は現在、5万点以上。これらは、水戸の先人たちが自然環境が残した、かけがえのない宝物です。

市立博物館では、こうした水戸の宝を「自然部門」「歴史部門」「民俗部門」「美術部門」の4つの部門に分けて、大切に取扱っています。その最前線に立つのが、各部門の学芸員です。

学芸員と聞くと、展示品を並べたり展示解説をしたりするイメージがあるかもしれません。実は、収蔵品の保管と整理、調査と研究、そして収集作業など、あまり知られていない仕事がたくさんあります。すべては、水戸の宝を将来の世代に確実に伝え、その魅力を発信するため。学芸員は日々、収蔵品に向き合っています。

市立博物館は昭和55年、市制施行90周年記念事業の一つとして、水戸に関連する資料を収集・展示する総合博物館としてオープンしました。そして令和2年度に、開館40周年を迎えました。

連載では、市立博物館が収蔵しているさまざまな水戸の宝の魅力について、各部門の学芸員がお伝えします。この機会に、市立博物館での学び方、楽しみ方にふれてみませんか。